

協同組合ネットワーク研究所

所長 高瀬 雅 男

1. 研究目的

近年の規制緩和政策により、農林漁業・中小企業の経営は困難を極め、雇用と暮らしは不安定となり、食の安全も脅かされ、地域社会の活力も低下しつつある。

このような状況の中で、自助努力と協力の力によって組合員の事業と生活の改善をめざす協同組合への期待が高まっている。自助努力と協力の力によって事業連携、協同組合間協同を進展させ、農林漁業者、中小企業者、消費者の事業と生活を改善することによって、地域社会の持続的発展も展望できる。しかしその道筋は必ずしも自明ではない。そこで地域社会の一員である福島大学と協同組合が、共同して事業連携と協同組合間協同による地域社会の持続的発展について研究することが求められる。

プロジェクトでは、地元の協同組合と共同し、必要に応じて地方自治体と連携しつつ、社会科学、自然科学などのさまざまな学問分野から、事業連携、協同組合間協同による地域社会の持続的発展に関する研究活動を行う。

2. 研究メンバー

<研究代表者（研究所所長）>

高瀬 雅男（行政政策学類・特任教授）

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

小島 彰（人間発達文化学類・教授）

初沢 敏生（人間発達文化学類・教授）

牧田 実（人間発達文化学類・教授）

塩谷 弘康（行政政策学類・教授）

千葉 悦子（行政政策学類・教授）

岩崎由美子（行政政策学類・教授）

飯島 充男（経済経営学類・教授）

清水 修二（経済経営学類・教授）

山川 充夫（経済経営学類・教授）

井上 健（経済経営学類・准教授）

小山 良太（経済経営学類・准教授）

佐藤 英雄（大学院経済学研究科・修了生）

星野 珙二（共生システム理工学類・特任教授）

藤本 典嗣（共生システム理工学類・准教授）

石田 葉月（共生システム理工学類・准教授）

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

長島 俊一（県農業協同組合中央会・常務理事）

新妻 芳弘（県漁業協同組合連合会・専務理事）

船木 秀晴（県森林組合連合会・専務理事）

佐藤 一夫（県生活協同組合連合会・専務理事）

<研究補助者（プロジェクト研究補助員）>

末永 弘（元福島県農林水産部・技監）

3. 研究活動

2010年度の活動は、地産地消と協同組合間協同のビジネス・モデルの探求として、県内の農林水産業や協同組合組織の現状を把握し、現地調査を実施したうえで福島産農林水産物の商品開発や協同組合間協同を含む流通システムについて研究し、その成果をシンポジウム「絆で創る！！ふくしまSTYLE—地消地産と協同組合間協同」（2010年11月15日）で発表した。

ところが2011年3月11日に起きた東日本大震災・原発事故により、福島県は放射性物質で汚染され、地産地消は根底より崩れてしまった。そこで2011年度の本研究の活動は、放射能汚染による農林水産業の被害の実態を明らかにしつつ、原子力損害賠償のあり方や協同組合間協同を介した安全・安心の農林水産物の生産・流通・消費システムのあり方について研究することを課題とする。

3.1 調査活動

(1)被災地調査

農協、漁協、生協、森林組合、個人農業者、有機農業者などの被害の実態と今後の対応について調査した。

(2)海外調査

10/31-11/7 チェリノブイリ調査団（団長清水修二福島大学副学長）に参加し、有益な知見を得た（小山良太）。

3.2 安全・安心な農産物生産・流通・消費システムに関する研究

(1) 土壌分析と汚染マップの作成

農地の詳細な汚染調査と汚染マップの作成が復旧の第一歩になるのにもかかわらず、国や自治体の対応は遅い。そこで民間で自主的に汚染調査を実施し、汚染マップを作成し、除染を含む今後の営農計画を立てようとする動きが生まれてきた。本研究所は、二本松市「NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」や伊達市「放射能からきれいな小国を取り戻す会」の実態調査活動に参加している。

(2) 農産物の生産・流通・消費システムの研究

放射能汚染地域における農産物の生産・流通・消費段階の安全検査に関して、ベラルーシ共和国と日本の対応に関する比較研究に取り組んでいる。その研究成果から、安全検査体制に関する4段階検査モデル（①全農地汚染マップ、②農地・品目移行率、③出荷前本検査、④消費地検査）を策定し、体系立てた検査体制の確立に向けた具体的な提言を行っている。

3.3 支援事業

各種団体の活動を支援した。

4/2 コープあいづ、コープふくしま、本研究所が相馬双葉漁協を支援、南相馬市道の駅で生活必需物資を販売

4/22 「ふくしま応援隊」：県JA中央会、県生協連、日本生協連が提携して全国に野菜とモモの販売キャンペーンを行う。

8/20-21 北大マルシェに出店したJA伊達みらいのモモ販売を支援した。

10/22-23 福大まちづくり(株) 復興マルシェ(街なか広場)を支援

3.4 研究発表、シンポジウム事業

6/15 福島大学教員における原発事故に関する地域調査・支援の情報交換

6/25 農業農協問題研究所福島支部との研究集会の開催

7/2 地産地消ふくしまネットとの共催で「第89回国際協同組合デー～絆で復興!!ふくしまSTYLE～」、高瀬雅男「国際協同組合年と地産地消ネット・研究所の取り組みについて」、小山良太「東日本大震災・原発事故からの復興に向けた取り組みについて」

10/15 日本協同組合学会(神戸大学農学部)、シンポジウム：小山良太「食料問題に果たす協同組合の社会的役割」、佐藤一夫第2コメント

11/3 かがしま九条の会憲法講演会、高瀬雅男「放射能汚染地に生きる—フクシマからの報告—」

11/25 農業農協問題研究所福島支部との研究集会の開催、小山良太「ウクライナ・ベラルーシにおける農業生産・流通対応」、高瀬雅男「原子力損害賠償の現状と課題」

12/8 2012国連国際協同組合年福島県実行委員会設立総会・シンポジウム「絆で復興!!ふくしまSTYLE」、小山良太「解題」

4. 研究成果

下記の研究成果があった。

- ・高瀬雅男「福島の現状と協同組合の課題」協う127号6-7頁、くらしと協同の研究所、2011.10
- ・小山良太「食料問題に果たす協同組合の社会的役割—福島県および協同組合の東日本大震災への対応—」『協同組合研究』第30巻第3号(通巻87号)13-20頁、2011.8
- ・小山良太「原発事故・放射能汚染と復興に向けた協同組合間協同の活動」『経営実務』No.827,全国共同出版、85-95頁、2011.9
- ・小山良太「放射能汚染と農と食の安全性」『協同の発見』第231号、協同総合研究所,51-61頁、2011.10